

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの進路を保障する教育課程を編成し、「読解力」の視点から授業の質的転換・向上を図るため、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒会活動や学校行事を通して、豊かな人間性、積極性と社会性を備えた生徒を育成する。</p>	<p>①生徒の学習意欲を高め、学力向上を図るために、主体的な学びのあり方を検証・実践し、授業展開の充実を目指す。</p> <p>②授業時数の確保と学校行事との連携を踏まえて、生徒の学校における活動の充実とスリム化を図る。</p>	<p>①生徒の学力向上のために、主体的に学習に取り組む授業研究を推進し、「読解力」を高めるためのアクティブ・ラーニングの視点などを踏まえた授業実践の研修会を実施して、指導方法の研究を進める。</p> <p>②授業時数の確保と行事の精選について、生徒の学校での活動全般におけるバランスに配慮しつつ、改善に取り組む。</p>	<p>①生徒による授業評価項目4における「4 かなりあてはまる」の回答が40%以上となったか。</p> <p>②学校行事等の具体的な見直し、整理・統合・廃止などにより、授業時間の確保が図られたか。</p>	<p>①生徒による授業評価項目4における「4 かなりあてはまる」の回答は、昨年度28%より8%増の36%であった。</p> <p>②授業数の標準時数確保に向けた年間計画の整備と65分授業に向けた時間割編成や教育課程編成への移行を図ることができた。</p>	<p>①公開授業をはじめ、各教科での生徒の主体的な学びを活かす授業実践が徐々に充実してきている。さらに組織的な取組を継続していく。</p> <p>②授業確保のための条件整備は図ることができた。生徒にとって有効な実践につながるように、職員間の情報交換や新たなシステムへの対応力が必要である。</p>	<p>①「授業がわかる」という生徒の評価が多数あることは評価できる。担当によって授業力の差があることは改善の余地はある。「読解力」を高めるためにさらに主体的に取り組む授業を多くしてほしい。</p> <p>②2学期制、65分授業への変更は、大和の生徒にとっては良い。より質の高い授業を実践してもらいたい。</p>	<p>①授業改善の取組の結果が少しずつ成果として表れている。教科の枠を超えて授業見学を行ったり、主体的、対話的な深い学びを推進できた。さらに研修の機会を広げ、授業力の差を減らし、進路実現につなげていきたい。</p> <p>②学校行事の日程や行事の運営の見直しにより、授業時間増加を図ったが、今後もさらなる行事の見直しと時間割の工夫が必要となっている。</p>	<p>①教材の共有化や学校全体でテーマを決めて研究を進めることや教科を超えた実践的な協議の機会を設ける。</p> <p>②平成30年から始まる2学期制、65分授業(A週・B週)を教科ごとに教材の内容や質を検証しながら、課題を整理し改善していくことが必要である。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①部活動のこれまでの伝統を継承する中で、新たな活動や学習活動との両立を図る取組を行う。</p> <p>②生徒一人ひとりの人間的な成長と心ふれあう教育を推進するとともにきめ細かな教育相談体制を確立する。</p>	<p>①現在の部活動加入率(90%以上)を維持するとともに、保護者や地域の理解と協力を得ることで総合的に部活動を活性化させる。</p> <p>①部活動と学習活動の両立を図る。特に定期試験前の部活動は制約をつける。</p> <p>②問題を抱える生徒に対して適切に対応する。</p>	<p>①部活動指導体制の充実や施設面の改善を図るとともに他校や外部団体との交流等により活性化を図る。</p> <p>① 夏季講習等の講座について、部活動との調整を行い、生徒の受講を可能にするとともに生徒への積極的な参加を促す。</p> <p>② ケース会議等を通じて定期的に生徒に関する情報交換を行い、全職員で現況を共有する。</p>	<p>①部活動加入率90%以上を維持できたか。</p> <p>①生徒の部活動に対する満足度が高まったか。</p> <p>①部活動加入生徒の夏季講習等の講座参加者の割合90%を維持できたか。</p> <p>②問題を抱える生徒の学校生活に改善傾向が見られるか。</p>	<p>①運動部・文化部を合わせて今年度も入部率90%を超えた。</p> <p>①部活動総点検で72%の部員が現在の部活動に満足していると答えた。</p> <p>①部活動加入生徒の夏季講習の講座参加者が90%を超えなかった。</p> <p>②アンケート、ケース会議等の実施により問題を抱える生徒を把握し、対応を検討できた。</p>	<p>①部活動と学習の両立のため、定期試験前・中の特別な活動には保護者への通知を出すようにした。</p> <p>①早めに講習の内容を提示し、参加希望者の増加をはかっていく。</p> <p>②生徒の抱える問題は種々多様であり、アンケートの形式や実施方法を常に改善の努力をしていく必要がある。</p>	<p>①「学校が楽しい。」という生徒の評価が多数あることは部活動の充実、学校行事へ取組を反映したものである。</p> <p>①早めに講習の内容を提示し、参加希望者の増加をはかっていく。</p> <p>②生徒の抱える問題は種々多様であり、アンケートの形式や実施方法を常に改善の努力をしていく必要がある。</p>	<p>①夏季講習の時間を調整したり、文武両道を進めことで、部活動の活性化につながった。</p> <p>競技力も向上しており、活躍が期待できる。</p> <p>①保護者や関係者からも学習活動との両立が課題として挙げられいたが、テスト前の保護者通知や練習時間の短縮など改善はみられる。</p>	<p>①施設面の改善や外部指導者の活用等でさらなる部活動の活性化をめざす。</p> <p>①学習とのバランスを考慮した活動ができるよう、休養日の設定などさらに検討していきたい。担任と部活動顧問との連携により、きめ細かな指導体制を構築する。</p>

3	進路指導・支援	卒業後までを見通したキャリア教育を充実させ、生徒の第1志望への進路実現を支援する進路指導を推進する。	キャリア教育の視点から、適切な進路指導を行い、生徒の進路希望の実現をめざす。	職員研修を実施し、模擬試験や合否結果等のデータの分析方法や活用方法を研究するとともに面談等による生徒への個別指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーグローバル大学(トップ型)現役進学率 12%以上を達成したか。</li> <li>・国公立大学現役合格率 12%以上を達成したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーグローバル大学への進学率は 6.4%であった。</li> <li>・国公立大学現役合格率は 12.8%となり、目標を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の進路の状況を把握し、客観的な検証を行い次年度以降につなげていく。</li> <li>・第1志望への進路実現のため様々な支援を行い、生徒が最後まであきらめずに挑戦していく体制を築いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IBM知的探訪に代わるプログラムを見つけ、キャリア教育の充実を期待する。</li> <li>・大学受験で早くから3教科に絞ったり、選択の幅を狭めるのは良くない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大接続改革の情報を進路説明会などで保護者と情報共有し、家庭と学校と連携を図り、キャリア教育を推進した。</li> <li>・データ分析や面談等により生徒個々に応じた進路支援を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65分授業への改善、夏季講習等の実施について検証し、学力向上を推進していく。</li> <li>・新しい大学入試やデータ分析・活用に関する職員研修を実施する。</li> </ul>
4	地域等との協働	外部へ本校の教育活動の情報を発信し、地域に根ざし、貢献する学校づくりを進める。	学校評議員会等を通じて学校へのニーズを的確に把握し、近隣の小・中学校及び自治会等との密接な協働体制の構築に努め、併せて、本校の教育活動の情報を積極的に発信する。	生徒会等を通じて地域の自治会及び福祉施設等と積極的に交流し、地域との協働体制の推進を図る。	地域主催の協働事業及び福祉事業に積極的参加が図られたか。	本校教員による中学校における体験授業の実施、つきみ野自治会との交流、吹奏楽部の福祉施設との交流等積極的な協働事業体制の構築を図ることができた。	今後とも地域に根差した学校づくりに向けて、生徒会等を中心に積極的な交流の推進を図りたい。	地域・中学生等への広報活動にHPを積極的に活用している。HPの更新回数が急増していることにより、最新の学校の様子がよくわかる。	HPの学校行事、部活動のページの充実が、中学生への広報活動や地域との交流に貢献できた。	学校説明会などで学校紹介ビデオを流すなど効果を上げている。更なる情報発信に努め、開かれた学校づくりを推進していきたい。
5	学校管理 学校運営	<p>①若手とベテランの教員の相互理解とスキルの継承を図り、すべての職員が一体となって課題に取り組む体制を構築する。</p> <p>②老朽化した設備を更新するとともに災害発生時のさまざまな場面に対応できる体制を整備する。</p>	<p>②安全・安心な教育環境の整備を推進する。</p> <p>また、地域の防災組織と情報を共有し、災害発生時の安全性の確保に努める。</p>	<p>②更新が必要な老朽化した設備の計画的な改善を行うとともに東日本大震災や熊本地震など直近の事例を教訓として、「生徒への災害図上訓練(DIG)」や「喫食訓練」等の実践的な防災訓練に取り組む。</p>	<p>②施設・設備の更新や改善を図ることができたか。</p> <p>②生徒への災害図上訓練(DIG)や、災害を想定した実践的な防災訓練を実施し、生徒への防災意識を高めることができたか。</p>	<p>①次年度以降も円滑に業務できるよう業務内容の引継ぎを図った。</p> <p>②限られた予算の中で、老朽化した物品を順次新しい物品と交換できた。また、災害を想定した実践的な防災訓練、および、かながわシェイクアウトを実施し、生徒の防災意識を高めることができた。</p>	<p>①さらに長期的かつ計画的に教員の相互理解とスキルの継承を図る必要がある。</p> <p>②近隣の学校や自治会とさらなる連携をはかり、災害発生時におけるグループ別の帰宅訓練等を含めたより実践的な防災訓練を実施し、防災意識を更に高める必要がある。</p>	<p>②近隣の学校や自治会とも連携し、災害時に備えるための機会を希望する。施設面はすぐには改修できないが、生徒のロッカーや下駄箱など計画的に取り換えていることはよい。</p>	<p>②設備の改修はかなり進めることができた。使いやすい施設設備を目指すとともに、維持管理のため、日常の清掃や点検、資源節約やリサイクルを励行する必要がある。</p> <p>②防災のための備蓄や設備について一定の改善を行うことができた。実際の災害を想定した効果的な訓練の実施が必要である。</p>	<p>②清掃活動とともに、ストープ、エアコン、電灯などの使用について、省エネルギーの観点から生徒の意識を高める働きかけを行う。</p> <p>②災害時に避難所に指定されているので、中学校、地域と連携して、より実践に近い訓練を実施したい。</p>